C-5

アイク語の結合価

Valency in Aiku

山本 恭裕 （東京外国語大学）
kyoyamamoto [at] tufs.ac.jp

要旨

類似する意味の動詞は類似する形態統語的振る舞いをすることが知られる (Jackendoff 1983, Levin 1993, Tsunoda 1985 など)。本発表はパプアニューギニア北部のアイク語を対象に，動詞の項の実現に関わる形態統語特徴を記述する。またこれに基づき動詞の結合価クラスについて考察を行う。具体的には，アイク語において動詞の意味と形態統語特徴の間にどの様な相関や規則を見出せるか，形態統語特徴から定義される動詞クラスの言語固有性の程度について議論する。

キーワード：アイク語，パプア諸語，動詞クラス，語彙と統語の接点

1 背景と目的

類似する意味を持つ動詞は類似する形態統語的振る舞いを見せることが複数の先行研究で報告されている (Jackendoff 1983, Levin 1993, Tsunoda 1985 など)。これらの発見に基づくと次の問いを設定できる：(a) 個別言語において動詞の意味と形態統語特徴の間にどの様な相関や規則を見出せるか, (b) 統語的振る舞いから定義される動詞クラスがどの程度言語固有であるのか。これらの問いを背景に本発表はパプアニューギニアのアイク語 (Ethnologue Code ymo) を対象に，動詞の項の実現に関わる形態統語的特徴とそれに基づく動詞結合価クラスの記述・考察を行う。

2 アイク語とその話者

アイク語はパプアニューギニア北部に分布するトリチェリ語族に属する (Laycock 1968, Hammarström et al. 2020, Eberhard et al. 2021)。この地域は互いに系統関係が想定されない 13 の語族と 3 つの孤立言語を含み，言語多様性という点において重要な地域の一つであるが，アイク語を含めて未記述の言語が数多く存在する。アイク語はモナンディンという一つの村でのみ話され，話者人口はおよそ 130 人である。全てのアイク語話者が地域共通語であるトク・ピシンとの 2 言語使用を行う。

アイク語は 3 つの母音音素 /i, a u/ と 12 の子音音素 /p, ^{m}b, t, ^{n}d, k, ^{ŋ}g, ^{k}ŋ, s, l, r/ を持つ。/i, u/ はそれぞれ [i] と [j], [u] と [w] として実現する。多くのパプア諸語（特に Kalam (Blevins & Pawley 2010)）と同様に [ɨ] や [ə] が挿入母音として現れるほか，弱化母音としても現れる。名詞は単数において女性と男性の 2 つの文法的性が区別される。人間や大きな動物は指示対象の生物学的性によってクラスが決まり，それ以外の有生物や無生物を指す名詞は女性として扱われる。形態論は動詞が最も複雑で，接頭辞と接尾辞のほか接中辞や音交替，補充法などの非線形的な形態プロセスも持つ。他動詞節での構成素の順序は AVU が基本である点で, AUV を基本の順序とする多くのパプア諸語と対照的である（詳しくは Donahue (2010) を参照のこと）。

データは，発表者が 2019 年 9 月にモナンディン地域において行った現地調査に基づく。今回の発表で使用するデータの提供者は女性 1 名，男性 3 名である。提供者たちの生年月日は提供者自

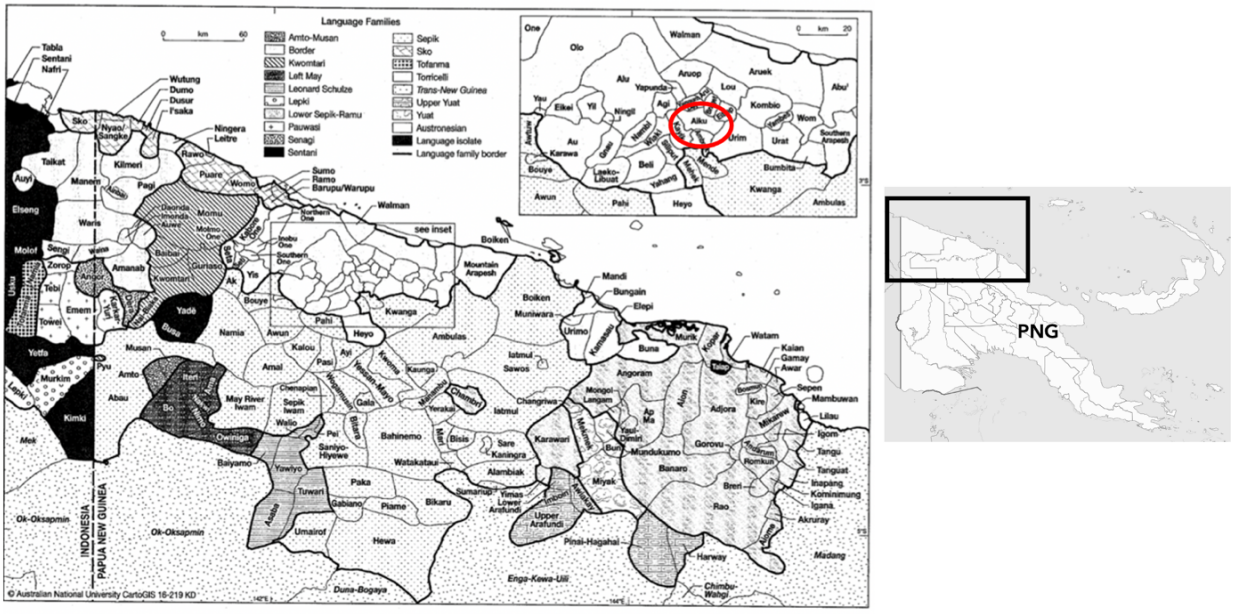

図 1 パプアニューギニア北部の言語グループ
（ANU CartoGIS 発行のデータから Foley (2018) が作成した地図を編集して使用）

身を含めて不明であるが，40 代から 50 代と思われる。データの種類は自然な発話 (**R**ecorded **N**atural **S**peech) と聞き取り調査により得たもの (**D**irect **E**licitation) の 2 つである。以降提示するデータにはデータタイプの区別 (RNS, DE) を記録ラベル，話者ラベル，発話開始時間と共に示す。

3 動詞

3.1 動詞形態論

後に詳しく見るように，アイク語は flagging の手段（名詞の格屈折や接置詞）を一切持たず，動詞述語上に現れる拘束人称形式が，動詞によって表現される事象の参与者の役割を表現する主要な手段である。以降これらの形式を Haspelmath (2013) に従い指標 (indexes) と呼ぶ。指標に加えて，動詞は様々な形態論カテゴリーについて屈折する。以下に動詞のテンプレートを示す。

again-ASP-A-U-<ASP><EMPH>Vroot.M.U-U-ADV

略号：A = A role, ADV = adverbial, ASP = aspect, EMPH = emphatic, M = mood, U = U role

指標では A role と U role の 2 つの値が区別される。A role の指標は一貫して接頭辞で実現するが，U role の指標は複数の位置のうち 1 つの位置で実現する。ムードは接辞や音交替や補充法など様々な方法で示されるが，不明な点が多く残されており，以降のデータでは必要のない限り明示しない。現在のところ，項の交替や増減に関わる動詞形態論は観察されていない。

3.2 項のコード化フレーム

表 1 に項のコード化フレームに基づく動詞の結合価パタンを示す。

表 1 項実現パタンのまとめ

Valency class	Indexing	Cooccurring NP	Sample verbs
Monovalent			
Intransitive	A-V	NP_S	*ua* ‘die’, *takai* ‘run’, *ipmi* ‘sleep’ *nulan* ‘burn’
Divalent			
Semi-transitive I	A-V	NP_A NP_U	*ial* ‘go’, *^{k}ŋara* ‘cut’, *^{ŋ}gal* ‘put’, *uai* ‘sit’, *sa^{k}ŋar* ‘pour’
Semi-transitive II (with *wan* ‘head’)	A-V	NP_A *wan* NP_U	*akana* ‘know’, *ikitain* ‘forget’
Basic transitive	A-V-U	NP_A NP_U	*para* ‘break’, *sukru* ‘look for’, *a^{n}du* ‘and’, *lia* ‘fill’
Trivalent			
Ditransitive	A-V-U_R	NP_A NP_T NP_R	*awu* ‘give’, *akan* ‘scratch’

3.3 1 つの参与者を指標する動詞

5 つのうち 3 つの動詞クラスの動詞は A role の指標のみを表現する。

表 2 A role の指標に対する動詞の屈折

	SG	PL
1	m-V	p-V
2	V	i-V
3F	u-V	i-V
3M	n-V	

a^{k}ŋau ‘eat’ の指標を (1) で例示する。人称と数について差異を見せることがわかる。

(1) a. wup kan-**m**-a^{k}ŋau.
1SG PFV-1SG.A-eat
‘I ate.’

b. jit kan-a^{k}ŋau.
2SG PFV-2SG.A.eat
‘You (sg) ate.’

c. ilmias kan-**n**-a^{k}ŋau.
man PFV-3SG.M.A-eat
‘The man ate’.

d. tu-k kan-**w**-a^{k}ŋau.
3-3SG.F PFV-3SG.F.A-eat
‘She ate.’

e. mian kan-**p**-a^{k}ŋau.
1PL PFV-1PL.A-eat
‘We ate.’

f. jip kan-**j**-a^{k}ŋau.
2PL PFV-2PL.A-eat
‘You (pl) ate.

g. ti-^{n}du kan-**j**-a^{k}ŋau.
3PL-2 PFV-3PL.A-eat
'They two ate.' (aiku190912_01-00:00:47.000) DE, OST

♦ **Intransitive: NP$_S$ A-V**

このクラスの動詞は 1 つの項をとり，動詞上でその名詞句を指標する。このクラスには *ua* 'die', *takai* 'run', *ipmi* 'sleep' *nulan* 'burn', *ua^{ŋ}gan* 'walk', *ulk* 'grow up', *lpak* 'cry', *awur* 'get up, occur' などが含まれる。

(2) ^{ŋ}gaik p-**ipmi**.
1PL 1PL.A-sleep
'We go to bed.' (aiku190917_02-00:03:50.104) RNS, PTL

(3) j-**ulk** i-nuau.
3PL.A-grow.up 3PL.A-go.up
'They (the vegetables) grew up.' (aiku190917_05-00:01:27.452) RNS, CSP

♦ **Semi-transitive I: NP$_A$ A-V NP$_U$**

このクラスの動詞は 2 つの項をとり，A role の指標を表示する。このクラスには全ての経路移動動詞や姿勢動詞が含まれる。

(4) m-**la** m-**^{ŋ}ga^{n}di** jau.
1SG.A-come 1SG.A-arrive place
'I come back home.' (aiku190917_02-00:02:14.114) RNS, PTL

(5) wara-k si^{n}du-k u-**wai** ja^{k}ŋiŋja^{k}ŋiŋ.
child-3SG.F woman-3SG.F 3SG.F.A-sit sick
'The girl is sick.' (aiku190912_05) DE, JUD

多くのパプア諸語（特に高地）において，有生物の参与者が事象のコントロールを持たないとき非人称構文が使用される (Foley 1986: 121−3)。例えば Hua 語の非人称構文では，動詞に三人称単数主語の指標が現れるが主語名詞句を欠き，経験者が目的語として表現される (Haiman 1980: 357−66)。しかし (5) が示す様に，ニューギニアに広く見られる事象コントロールの有無に対する敏感さはアイク語で際立っていない。

上述の動詞以外に，いわゆる典型的な他動詞 (Hopper & Tompson 1980, Haspelmath 2015) に対応する意味を表現する動詞もこのクラスに多く含まれる。(6) は *ti* 'clean' を，(7) は *^{k}ŋara* 'cut' を例示する。

(6) p-**ti** awriŋ.
1PL.A-clean garden
'We clean the garden.' (aiku190917_03-00:00:53.030) RNS, CSP

(7) p-il p-**^{k}ŋara** liau
1PL.A-go 1PL.A-cut sago.palm
'We go cut sago palms.' (aiku190917_02-00:00:30.655) RNS, PTL

(8) は *ᵑgal* ‘put’ の例。*ᵑgal* の項は行為者と移動物のみで着点の項を取らず，姿勢動詞や移動動詞を後続させて着点を表す。

(8) m-ᵑga^{k}ŋau liau m-**ᵑgal** m-nar waiput.
1SG.A-get.3SG.U sago 1SG.A-put 1SG.A-go.down dish.
‘I take sagos and put them on the dish. (aiku190917_02-00:02:40.834) RNS, PTL

♦ **Semi-transitive II: NP$_{A}$ *wan* A-V NP$_{U}$**

この動詞を述語とする節には，動詞の直前に *wan* ‘head’ が現れる。このクラスの動詞は今のところ 2 つで，知識の獲得に関わる *akana* ‘know’ と *ikitain* ‘forget’ である。以下の (9) では *ilmias* ‘man’ が指標されている。

(9) ilmias wan n-**akana** pliaplia.
man head 3SG.M.A-know many
‘The man knows many things.’ (aiku190912_05-00:05:11.370) DE, OST

3.4 2 つの参与者を指標する動詞

残り 2 つのクラスの動詞は A role と U role の指標を表示する。U role の指標の典型的な実現の一つが表 3 のような接尾辞での実現である。

表 3 A role と U role の指標の実現

	1SG.U	2SG.U	3SG.F.U	3SG.M.U	1PL.U	2PL.U	3PL.U
1SG.A		m-V	m-V-k	m-V-n	m-V	m-V	m-V-u
2SG.A	V		V-k	V-n	V	V	V-u
3SG.F.A	u-V	u-V	u-V-k	u-V-n	u-V	u-V	u-V-u
3SG.M.A	n-V	n-V	n-V-k	n-V-n	n-V	n-V	n-V-u
1PL.A	p-V	p-V	p-V-k	p-V-n		p-V	p-V-u
2PL.A	i-V	i-V	i-V-k	i-V-n	i-V		i-V-u
3PL.A	i-V	i-V	i-V-k	i-V-n	i-V	i-V	i-V-u

しかし，一貫して接頭辞で実現する A role の指標とは異なり，U role の指標は接頭辞や補充法など様々な実現をとる。以下は補充法による実現の例である。

(10) a. wup m-**ᵑga^{k}ŋau** i^{m}bak wara-k.
1SG 1SG.A-get.3SG.F.U dog child-3SG.F
‘I took the female dog.’

b. wup m-**ᵑganan** i^{m}bak wara-n.
1SG 1SG.A-get.3SG.M.U dog child-3SG.M
‘I took the male dog.’

c. wup m-**ŋga^{k}ŋin** i^{m}bak wara-w.
1SG 1SG.A-get.3PL.U dog child-3PL
'I took the dogs.'

b. wup m-**a^{ŋ}giu** jit.
1SG 1SG.A-get.3SG.F.U 2SG
'I took you.' (aiku1921_01-00:18:32.615) DE, CSP

♦ **Basic transitive: NP$_A$ A-V-U NP$_U$**

このクラスの動詞は項を 2 つとり，そのどちらも動詞上で指標する。このクラスに入る動詞は他動詞として実現するのが予期できるもの，例えば *iŋgilna* 'put fire', *kra* 'push', *para* 'break', *siŋga* 'wash', *skawa* 'hit', *rta* 'give birth' *aka* 'plant', *ŋga* 'look after', *amba* 'hit', *mauru* 'raise' *sauka* 'call, ask' *sukru* 'look' が多いが，関係性を表現する *a^{n}du* 'and' などもこのクラスに含まれる。(11) は *sukru* 'look for' と *a^{n}du* 'and' を含む例である。

(11) panip-main ..... **m-sukru-k** m-ial m-la **m-a^{n}du-k**
vegetable-PL PAUSE 1SG.A-look.for-3SG.F.U 1SG.A-go 1SG.A-come 1SG.A-and-3SG.F.U
'I go get vegetables and bring them home. (aiku190917_02-00:02:11.483) RNS, PTL

♦ **Ditransitive: NP$_A$ A-V-U$_R$ NP$_T$ NP$_R$**

3 つの項をとる動詞は *awu* 'give', *akan* 'scratch', *lapa* 'tell a lie' の 3 つのみ。(12) に例を示す。U role の指標に指標されるのは受け手であることがわかる。

(12) ilmias **n-awu** wup manman ipaka.
man 3SG.F.A-give.1SG.U 1SG something one
'The man gave me something.' (aiku190912_02-00:20:57.285) DE, OST

4. 結論・議論

アイク語は動詞上の指標を主な手段として事象参与者の役割を示す。アイク語の動詞クラスについて以下のようにまとめられる。

a. 動詞上に実現する指標は最低で 1, 最大で 2 である。A role の指標は必ず存在し，U role の指標の存在は A role の指標の存在を含意する。他のパプア諸語と異なり，事象のコントロールの有無などによって参与者のコード化が影響を受けるという現象は今のところ観察されていない。ここで指標について次の一般規則を仮説として提示できる。

仮説：A role の指標が指標するのは一番高い項で，U role の指標が指標するのは相対的に一番低い項 (e.g. $[\![takai]\!] = \lambda x[x \text{ ACT}_{<\text{running}>}]$, $[\![para]\!] = \lambda y\lambda x[x \text{ CAUSE } [y \text{ BECOME } <\text{break}>]]$, $[\![awu]\!] = \lambda z\lambda y\lambda x[x \text{ CAUSE } [y \text{ BE-AT } z]]$)。

b. A role の指標は比較的一貫した位置に実現するのに対して, U role の指標の実現には接頭辞，接尾辞，補充法という複数の方法が存在する。この点は同じトリチェリ語族のイェリ語のパタンと多少類似する。イェリ語では主語の指標が一貫して接頭辞で実現する一方，目的語の指標は接頭辞と接中辞の 2 つの実現位置を持つ (Wilson 2017: 343)。しかし，イェリ語で目

的語の指標の実現位置を決めるのは人称であり，動詞の語彙素によってパタンが異なるアイク語とは違いがある。

c. 通言語的に典型的な他動詞のフレームをとる傾向が強い動詞が異なるクラスに分裂する。‘cut’ のような状態変化動詞は通言語的に ‘break’ と同様のクラスに分布する傾向が非常に高い。Haspelmath (2015) は，地理的，系統的に多様な 36 言語において，両者は必ず同じコード化フレームをとると報告している。アイク語では ‘cut’ と ‘break’ は異なるクラスに分布し，前者は移動動詞などと同じクラスに入る。その一方で関係性を表す *a*^{n}*du* ‘and’ が典型的な他動詞と同じクラスに入る点も今回の発見の 1 つである。

d. 3 項動詞が非常に小さいセットである。通言語的に 3 項動詞で現れることが期待される動詞のいくつかが他の動詞クラスに含まれる。項と指標の数の両方の点で，アイク語では最大で 2 を好む傾向が見られる。この 2 点について，トリチェリ語族の言語は多様性を見せる。例えば南アラペシュ語は 3 項動詞を豊富に持ち全ての項を動詞上で指標する。一方ウリム語は充当態により 3 項動詞を生産的に派生できるが，目的語の指標しか持たない (Foley 2018: 310–22)。

略号一覧

A = A role, F = feminine, PFV = perfective, PL = plural, SG = singular, U = U role

謝辞

何よりもアイク語の先生たちに強く感謝する。本稿は科学研究費補助金 (20K13042, 19KK0012, 19H01264) の成果の一部である。

引用文献

Blevins, Juliette & Andrew Pawley. 2010. Typological implications of Kalam predictable vowels. *Phonology* 27. 1–44./ Donohue, Mark. 2010. The Papuanness of Papua New Guinea’s eastern highlands. In Billings, Loren & Nelleke Goudswaard (eds.), *Piakandatu ami Dr. Howard P. McKaughan*, 87–93. Linguistic Society of the Philippines and SIL Philippines./ Eberhard, David M., Gary F. Simons, and Charles D. Fennig (eds.). 2021. *Ethnologue: Languages of the World*. Twenty-third edition. Dallas, Texas: SIL International. (http://www.ethnologue.com, Accessed on 2021-05-8.)/ Foley, William A. 1986. *The Papuan languages of New Guinea*. Cambridge: Cambridge University Press. Foley, William A. 2018. The languages of the Sepik-Ramu basin and environs. In Bill Palmer (ed.), The languages and linguistics of the New Guinea area, 197−431. Berlin & Boston: Mouton de Gruyter./ Haiman, John. 1980. *Hua: A Papuan Language of the Eastern Highlands of New Guinea*. Amsterdam: John Benjamins./ Hammarström et al. 2020. *Glottolog* 4.2.1. Jena: Max Planck Institute for the Science of Human History. (http://glottolog.org, Accessed on 2021-05-8.)/Haspelmath, Martin. 2013. Argument indexing: A conceptual framework for the syntactic status of bound person forms. In Dik Bakker & Martin Haspelmath (eds.), *Languages across boundaries: Studies in memory of Anna Siewierska*, 197−226. Berlin & New York: De Gruyter Mouton./ Haspelmath, Martin. 2015. Transitivity prominence. In Malchukov, Andrej L. & Comrie, Bernard (eds.), *Valency classes in the world’s languages*, 131−147. Berlin: De Gruyter Mouton/ Hopper, Paul & Thompson, Sandra A. 1980. Transitivity in Grammar and Discourse. *Language* 56, 251-299./ Jackendoff, Ray. 1983. *Semantics and Cognition*. Cambridge, MA: The MIT Press./ Laycock, Donald C. 1968. Languages of the Lumi subdistrict (West Sepik district), New Guinea. *Oceanic Linguistics* 7.1, 36−66./ Levin, Beth. 1993. *English Verb Classes and Alternations: A Preliminary Investigation*. Chicago, IL: University of Chicago Press./ Tsunoda, Tasaku. 1985. Remarks on transitivity. *Journal of Linguistics* 21: 385–396./ Wilson, Jennifer. 2017. A Grammar of Yeri: A Torricelli language of Papua New Guinea. Doctoral dissertation. State University of New York at Buffalo.